

■物件撮影のポイント（ビデオ編）

物件をわかりやすく、かつ美しく。
現地を見に行ってみると同じ感覚になるよう撮りましょう

●撮影をする前に

- ・ 天気の良い日を選び撮影しましょう。
- ・ 出来るだけ室内を明るく撮影しましょう。バス・トイレなどの照明器具は全て点灯します。
- ・ 「逆行補正」のモードがあれば、その設定をしておきます。
- ・ 女性の目線の高さで。ただし、流し台・バスは覗き込むように撮影します。
- ・ 現地を訪れて見ているかのように、写真ではわからない詳細を撮影します。棚の中のつくり、設備など細かく撮りましょう。

●撮影前のポイント

撮影をする前に、物件の室内・ベランダ・バス・トイレ・棚の中・キッチンを見て、どのような造りになっているかを確認し、頭の中で撮影するイメージを描いてください。

家の概観→庭→玄関→廊下→（近い部屋から順に）居室（窓の眺めも含む）→台所→風呂→トイレ→周辺環境の順に撮っていくなど、撮影の順番を決めましょう。どの物件でも撮影する順番が同じようにします。そうすると、撮影者と編集者が違う場合でも、混乱なく作業出来ます。

●ビデオの撮り方

実際にお客様が物件を見ている(目の動き)イメージの撮影です。

ただし、ビデオカメラを手で持って、ぐるぐると回して撮らないでください。再生して見た時に、画面が揺れ、目がまわります。三脚を使用するか、手持ちの場合は脇を固定し、常に直線を意識して撮るようにしましょう。

ずっとつなげて流し撮りをするより、こまめにカットした方が見やすい映像になります。

横ライン、縦ライン、静止で2秒の3パターンにします。

- ・ 玄関ドアは、縦ラインで
- ・ 居室は、横ラインで
- ・ 給湯設備の操作パネルは、静止画で などなど

各部屋の撮影の前に、その入り口ドアを撮影します。まず閉めた状態で撮り、次に開けた状態にして、室内をズームしていきます。中に入っていくイメージです。

キッチンや下駄箱などの収納を撮影するときは、まず収納扉を閉めた状態で撮影し、一時停止しておいて扉をあけ、開いた内部を撮影します。必要であれば、覗き込むように詳細を撮影しましょう。